

長野県植物誌改訂 研究史資料 5：井上 健

中村 千賀*

前号に続き、長野県内で活躍された植物研究者を紹介する。今回は、長野県植物研究会で庶務幹事や研究会誌の編集委員を長年務められた元信州大学理学部教授の井上 健先生（写真 1）を紹介する。本稿には信州大学名誉教授佐藤利幸先生、はなのき友の会の所沢あさ子氏からご寄稿いただいた。深く感謝申し上げる。

井上 健氏（1948-2003）略歴

1948 年東京都生まれ。1970 年に東京大学理学部生物化学科を卒業され、企業で働いた後、小石川植物園（東京大学大学院理学系研究科植物学専門課程）において山崎敬博士の指導の下で研究を始める。1983 年に博士課程を修了され理学博士の学位を取得。1985 年より秋草学園短期大学講師、87 年に同助教授を経て、88 年より信州大学に移り、教養部助教授となる。1995 年から同大学理学部助教授、97 年からは教授を務める。専門は植物分類学・植物進化学で、特にラン科ツレサギソウ属、キキョウ科ホタルブクロ属を対象に、送粉昆虫との関係から花の進化を研究された。また、ラン科植物を始め、カワラノギクやハナノキなど絶滅危惧種の研究や保全活動に取り組まれた。日本植物分類学会絶滅危惧植物問題検討第一専門委員会委員、同学会絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会委員長、種生物学会幹事・和文誌編集委員長、長野県植物研究会庶務幹事・会誌編集委員を務める。2003 年 7 月、サハリンでの調査中の事故により 55 歳で急逝される。

井上 健先生は東京大学大学院で日本のラン科ツレサギソウ属 *Platanthera* 6 グループ 21 種の分類の研究をされて学位を取得された（後に 24 種に分類）。花の形態を調べる中で、花とその花粉を媒介する送粉昆虫（主にガの仲間）との共進化に着目された先生は、花の進化にどのように昆虫が影響を及ぼしているのか（淘汰圧）についての研究に取り組まれた。それぞれの種ごとに花の距の長さとかガの口吻の長さとの対応を調べ、距の長さを実験的にコントロールし繁殖成功度を定量化する研究もされた。また、生



写真 1. ハナノキの自生地を訪れた井上健先生
（2000 年 7 月 22 日、提供 はなのき友の会）

育地ごとのガの生息密度やガの花に対する好みの違いなども調べられ、共進化のプロセスを解明するための緻密な研究を行われた。

花の進化に関する研究はホタルブクロ属 *Campanula* へと発展した。本州のホタルブクロ *C. punctata* Lam. var. *punctata* の花に比べて伊豆諸島の近似種シマホタルブクロ *C. microdonta* Koidz. は小型であることや自家受粉をしやすいことに着目し、それぞれの島ごとの送粉昆虫相（マルハナバチやコハナバチ）との関係を細かく検討された。ここでは野外実験だけでなく、タンパク質の多型など生化学的な実験も取り入れ、他家受精や種分化の程度なども研究されている。当時、送粉昆虫が関わる植物種の進化に関するモデル研究となるものであった。

ライフワークとなったランの研究がきっかけになり、絶滅危惧植物の保全に対する研究や活動も精力的に行われた。信州大学に來られて間もない 1990 年から日本植物分類学会の絶滅危惧植物問題検討委員会の委員を務められた。97 年には NGO「ラン・ネットワーク」を立ち上げ、会の代表としてラン科植物の保全のために民間組織・行政機関・地元住民との橋渡しに努められた。また、多摩川において河原固有種で絶滅危惧種であるカワラノギク *Aster kantoensis* Kitam. の繁殖生態についての研究も長年継続され、多くの成果をあげられている。

* 長野市立博物館分館戸隠地質化石博物館

〒381-4104 長野県長野市戸隠栃原 3400

長野県内でのご活躍をまとめると、長野県植物誌(1997)においてラン科を始めイラクサ科やシソ科など7科を執筆されている。また県内から、ナベクラザゼンソウ *Symplocarpus nabekuraensis* Otsuka et K.Inoue、シナノショウキラン *Yuania flava* K.Inoue et T.Yukawa の2新種を発表されている。絶滅危惧種の保全研究に関しては、本会誌第26号(1993)に「長野県希少植物の保全に関する研究覚書」と題して、希少植物の保全に必要な具体的な調査・研究の手法を述べている。それをツキヌキソウ *Triosteum sinuatum* Maxim.、ハナノキ *Acer pycnanthum* K.Koch (写真2)、タデスミレ *Viola thibaudieri* Franch. et Sav.、トガクシソウ *Ranzania japonica* (T.Itô ex Maxim.) T.Itô などの個体群について実践し、本会誌上で示されている。ハナノキの保全活動に対しては、行政への働きかけも積極的に行っていた。2000年版環境庁レッドデータブックの作成のための県内の生育地調査を中心になって行ったのも井上先生である。森田竜義氏は井上先生への追悼文(森田2004)の中で「絶滅の危機に瀕した種を救おうと“行動する植物学者”だった」と述べているが、まさにそのような姿だった。

なお、井上先生は上記の2種以外に、ラン科ツレサギソウ属を中心に次に挙げる3新種2新亜種を発表されている。*Platanthera mandarinorum* subsp. *formosanum* T.P.Lin & K.Inoue、*P. stenoglossa* subsp. *hottae* K.Inoue ソハヤキトンボソウ、*P. bhutanica* K.Inoue、*P. handelmaazzettii* K.Inoue、*Clerodendrum izuinsulare* K.Inoue, M.Hasegawa et S.Kobayashi シマクサギ。また、先生が生前にラン科の項の執筆をされていた「Flora of Japan, Vol. IV b」が2016年に発刊となった。またこの項の図版として利用できる「日本ラン科植物図譜」が2012年に出版されたが、先生が採集された標本(花の液浸標本を含む)が図の制作に多数使用されている。

井上先生の著書の前書きなどには、約5億年前の植物の陸上への進出、約2億年前の中生代の裸子植物林といった地球の生命の歴史から語り始める、進化生物学者らしい先生の記事を見出すことができる。先生は現在の植物の姿の中に、何億年もの進化の歴史、周りの環境や様々な生物との相互作用の過程をみていたのだろう。そうした進化の歴史性と多様性をもった植物たちが人間活動によって絶滅に瀕していることに対して、研究者として行動を起こさずにはいられなかったのではないだろうか。先生の研究成果や姿勢は今も多く示唆を与えて下



写真2. ハナノキの花、左：雄花、右：雌花
(提供 はなのき友の会)

さっている。

先生は東京大学に近い文京区向丘1丁目の正行寺に眠っている。15年前は寺の入り口に古い桜の木があった。コロナ禍が落ち着いたらこの原稿の報告に先生を訪ねたいと思う。

本稿は以下の文献と井上先生の著書・論文等を参考にした。

菅原 敬 2003 井上健さんを悼む. 植物地理・分類研究 51: 196-198

森田竜義 2004 追悼 井上健博士. 植物研究雑誌 79: 73-77

加藤雅啓 2004 井上健博士を悼む. 分類 4: 3-6

以下に、井上先生からハナノキの保全活動で多くの励ましを受けたはなのき友の会の所沢(旧姓北沢)あさ子氏と、先生と同じ信州大学理学部で教鞭を執られた佐藤利幸名誉教授による、先生との思い出の文章を掲載する。

ハナノキと井上健先生

はなのき友の会 所沢あさ子

信州大学の井上健先生から「絶滅危惧種のハナノキを保全したい」と電話を頂いたのは1993年の秋頃だったでしょうか。1994年6月11日に、井上先生と先生の下で植物の研究をされていた小澤正幸さんを飯田市竹佐・箱川の「ハナノキ湿地」(所沢が保全のために東海丘陵要素植物の生育する湿地をハナノキ湿地と呼ぶ)へご案内しています。同年8月21日に井上先生は妻の和子さんと来られ、その時の和子さんはずっと笑いが絶えなくとても印象的でした。また翌年6月7日に井上先生が山本三ツ山にカザグルマの調査に来られた時も和子さんが小さな犬を抱えて来られ、とても和やかな雰囲気でした。

た。

井上先生は 2003 年 7 月 28 日にサハリンの事故によって 55 歳で亡くなるまでの 10 年間、ハナノキ湿地の保全のために働かれました。ハナノキ湿地約 7ha の所有者の太田穂穂さんと懇談し山と一緒に説明をしてくださいました。

井上先生は信州大学の生徒たち、バートン バーンズ先生（当時ミシガン大学大学院教授）、佐伯いく代さん（現在筑波大学大学院准教授）、森林総合研究所の金指あや子さんら研究者や、はなのき友の会会員らと共に頻繁にハナノキ湿地に通い生態調査を行いました。特に「ハナノキと動物との関係」に興味をもって調査をされていました。先生はまた、研究の成果の報告や時に明治大学の倉本宣さんを講師として呼んで、山本で学習の場を私達に提供されました。

先生は開発に対しても声を上げました。県廃棄物処理事業団が阿智村に計画した廃棄物処理施設の建設に対して、2000 年 3 月に長野県や阿智村などの関係する行政機関を訪ね、ハナノキ湿地の保全の要望書（日本植物分類学会・日本生態学会中部地区会の連名）を提出しました（はなのき友の会も同行し要望書を提出）。

先生が保全活動に関わっていただいたことによって、はなのき友の会は活動が盛んになり、点在するハナノキ湿地で沢山の事を学び、そのころ処理施設以外にもハナノキ湿地に計画された様々な開発計画、湿地の水抜き（数億円の予算がついていた）、道路、堆肥センターなどの計画に対しても意見を上げ、地元の方たちとともに保全を進めることができました。長野県におけるハナノキ湿地の殆どが飯田市山本と隣の阿智村に点在していますが、先生が来られる前（1990～1993 年）のゴルフ場計画も含めると、ハナノキ湿地の殆どに開発計画が上っていました。このような状況の中で先生の保全のための行いは、私たちに大きな力を与えて下さり、現在でも大方遺すことができている。

また、ハナノキだけでなくヤクシマヒメアリドオシランについては、2000 年に伊那谷、木曽谷、中津川市等のハナノキ湿地で見つかり、井上先生に確認していただいたことも大切な思い出になっています。当時伊那谷のハナノキ湿地では 4 個体しか確認できなかったのが、2019・20 年の調査では、周辺に点在する湧水湿地を含む約 300ha の範囲で、1419 個体を数えています。開発で潰されなくて本当に良かったと思います。

今でも先生が紹介してくださった研究者の方々から励まされています。中でもバーンズ先生と佐伯さんの生態調査と保全活動の力が大きかったです。日本のハナノキ湿地全体について 1998 年 9 月 26 日から 2004 年まで、調査が約 240 日間行われ、所沢も参加することができ大変勉強になりました。

2001 年 5 月までは、井上先生と信州大学の学生たち、はなのき友の会会員、バーンズ先生ら、森林総合研究所の方たちとの合同の生態調査を行い、また開発計画に対して行政機関への要望書を提出するなど、井上先生との密接な活動があったのですが、2001 年 6 月 20 日に、先生から調査の打ち切りの手紙が送られてきました。「ハナノキの自生地の保全については、行政や地元の同意のもとに数千万円から数億円規模の工事を行う必要がありそうで、個人の研究の範囲を超えているように思われ、今後どのように取り組むのが良いか、難しいと思われます」とのことでした。それから先生と電話や直接お会いして、調査や講演をお願いしましたが「話すことはない」と断られました。

それから 2 年後の 2003 年 3 月に、はなのき友の会は長野県における自生のハナノキの毎木調査報告をまとめ「ハナノキとハナノキ湿地を保全して生物多様性に貢献しよう（略称：ハナノキの保全 2003）」として出版しました。そこには、井上先生の行った講演、県庁への要望書の内容やその時の新聞報道等、信州大学の学生やはなのき友の会などの合同で行った毎木調査者名、データ等が書かれています。他にハナノキのパンフレットや写真はぎも出来上がり、報告書とともに先生に送りました。それには先生は大変喜んでくださいました。

先生に最後にお会いしたのは 2003 年 7 月 3 日、信州大学において日本の R.D.B の見直しの件について、信州大学で行った長野県の調査者の集まりでした。先生は日本の R.D.B の見直しの委員長で、長野県の責任者をされていました。そして先生は 7 月 19 日からのサハリンの調査を大変楽しみにしておられました。

先生が亡くなって 17 年経った今でも阿智村伍和備中原のハナノキの雌木（メギ）の太い幹には、先生がかけたと思われる土手の上から 5～6 m の高さで細くたわんだはしごがかかっています。「研究してもハナノキの保全はできない」と失望された先に、私は知りませんでした。先生は調査をされていました。先生が生きておられたらきっと最初山本で行った庭の植栽木のハナノキとは違った、自生地の

胸高周囲 1 m を超える高木が 10 個体以上群生し、中には樹高 30 m も超える雌雄の赤いハナノキの花の香りに包まれて、先生は「ハナノキと動物との関係」の研究に喜びを感じられたことでしょう。それを伝えてくださったなら、私たちはどんなにうれしかったことでしょう。

参考

報告書 ～ハナノキとハナノキ湿地を保全して生物多様性に貢献しよう～ 長野県における自生のハナノキ毎木調査報告・2003 年 3 月・はなのき友の会発行
所沢（旧姓北沢）あさ子の野帳
ハナノキ湿地 パンフレット・2002 年 8 月・はなのき友の会発行

井上健先生を偲んで

佐藤利幸（小樽市星野・松本市入山辺・枝幸町歌登）
17 年も過ぎた。2003 年 8 月 1 日、小雨の午後、ロシア極東ユジノサハリンスクから函館・羽田空港経由で、井上先生の棺が家族とともに松本に着いた。薄暗いなか「生木の棺」を葬儀屋さん 2 人と引き出した。ロシアの棺は水葬なのだろうかと思うほど重かった。サハリン北部で井上先生は事故死された。垂れ下がった高圧電線からの放電死であった。叫び声と青白い光とともにツンドラの枯れ草から小煙が上がったという。皮肉なことに、井上先生は日本生態学会の野外調査リスク管理の責任者であったと思う。

2003 年 7 月 29 日朝 4 時前、理学部村井事務長さんから電話が鳴った「井上先生がロシアで事故に・・・家族への連絡できず・・・」。朝 5 時から 9 時まで、近所でご家族の行方を尋ね、附属中学・第一高校なども訪ねたが不明。ふと、井上先生との雑談を思い出した。「医学志望の娘が薬学に・・・」、近くの薬学系大学は・・・など連想し、某大学に直接電話をしてみた。プライバシー保護で連絡不可な今日、身分と事件概要を告げ、娘さんの電話番号を教わった。やっと神戸に帰省中の奥様と東京のお兄様へと連絡がつき、サハリンへの遺体確認と引き受けの旅となった。

30 日未明、奥様・長女さんとタクシーで羽田へ（7 万円）、朝 8 時、お兄さんと空港で合流。まずは札幌のロシア領事館で特別ビザ取得、札幌・函館からユジノサハリンスクへ飛んだ。娘さんへの妻涙の伝

言から 17 時間の曲芸であった。思えば朝 4 時から、事務連絡・教室会議・飛行機予約などなど・・・（70 万円の立て替え）。私の人生で、これほど無謀で濃縮した時空間曲芸はない。そもそもロシアへのフライトは不定期、翌朝 8 月 1 日朝函館からのみ。先生仲間と事務方の手分け予約作業も見事であった。生物学科と理学事務幹部がこれほど団結したのは初めてと思う。松本を 7 月 30 日未明 2 時出発、8 月 1 日に松本に戻った。2 日、全国からの多くの方々に見守られ通夜が終わった。人生 2 回目の私弔辞を納めた。

外務省の特別配慮でロシア領事館から奥様へのすばやいパスポート発券、遺体移動への気遣い、ご家族の悲しみに私涙した。「悪夢であってほしい」との願い叶わず、ユジノサハリンスクの寒い薄暗い木造小屋のなか、ローソク灯の下、井上先生は棺の中に作業服のまま横たわっていた。慌ただしくも寒いオホーツク海をご家族と眺めたあと、飛行機での特別移動となった。遺体は手荷物として扱われるという。極東ラン科の系統研究のため北海道大学総合博物館の高橋先生・河原先生らと海外学術研究調査の最中であった。お通夜のとき河原・高橋先生は調査スタイルのまま我が家にて顛末を語ってくれた。学術調査の中断に至った無念さやロシア側の共同研究者は継続を奨めたことなど。

信州大学に赴任した 44 歳のとき、徒歩で宿舎に案内してくれた。翌年娘が生まれたとき、「君の人生設計はどうなっているの？」「僕は計画的に体重を減らしたよ・・・」などマイペースでつぶやくチャミングさも思い出す。土日もなく、音楽を聴きながら日々研究されていた。ネジリコが張り巡らされた書籍棚の隙間に大量のプリンターインクが保管されていた。科学研究費も A・B・特定領域・農水委託研究など多数獲得されていた。PCR（ポリメラーゼ鎖反応）解析が不可欠なこのコロナ被害（大災害）のこの 1 年（2020 年）、井上先生は 30 年も前から遺伝子（ゲノム）解読による比較系統進化学を進められていた。ラン科系統・共生系・共進化・ハナノキ系統（北米との隔離）など派手な分野である。長野県植物研究会も幹事として 10 年間支えた。

名門開成高校から東大理学部化学系を卒業、就職後再起して植物系統分類学を目指し小石川植物園にて修士・博士を修了された。東大の山崎先生の末弟子で岩槻邦男・清水建美先生の推薦で信州大学教養部に赴任された。日本最寒地（日本のツンドラ歌登 -38.6℃）で育った私にとって、都生まれの超エリー

トさんと信州で一緒にできた幸運を忘れない。55 歳で倒れた井上先生、私はすでに 13 年も長生きした。井上先生の研究教育業績にはまだ遠い。井上先生は今、奥様・清水建美先生ご夫妻とともに「はやぶさ 2 号」を眺め、「長野県植物誌第 2 弾 2027」を天から待ってられると思う。長野県植物誌（1997 年）の改訂には 30 年もの旅がつづく。あと 6 年の飛行である。

井上健先生の業績

井上先生が単著の場合は先生のお名前を省略した。

【著書・編書・共著書】（写真 3）

- 1987 共著 ランと蛾の共進化. 日本の昆虫群集 すみわけと多様性をめぐって. 木元新作・武田博清編. 109-115. 東海大学出版会
- 1992 編著 第 1 章 送粉システムの進化. 河野昭一・井上 健. シリーズ地球共生系 3 昆虫を誘い寄せる戦略 植物の繁殖と共生. 井上 健・湯本貴和 (編). 9-41. 平凡社
- 1992 編著 第 4 章 著送粉者の介在した種分化. 同上. 81-101. 平凡社
- 1993 共著 ラン科・ツツジ科・サクラソウ科など. 日本植物分類学会編著. レッドデータ・ブック 日本の絶滅危惧植物. 農村文化社
- 1994 共著 岩槻邦男監修. レッドデータプランツ 日本絶滅危機植物図鑑一. 宝島社
- 1995 著 岩波科学ライブラリー 30 月下美人はなぜ夜咲くのか. 株式会社岩波書店
- 1996 編著 シマホタルブクロ もちつもたれつ、花とハナバチ. 平凡社自然叢書 31 植物の生き残り戦略. 132-143. 平凡社
- 1996 共 著 Evolution of *Campanula* flowers in relation to insect pollinators on islands. Inoue, K., Maki, M. and Masuda, M. Floral biology: Studies on floral evolution in animal-pollinated systems, Lloyd, D.G. and Barrett, S.C.H. (eds.). 377-400. Chapman and Hall
- 1997 共著 イラクサ科, トウダイグサ科, シソ科, アカネ科, レンブクソウ科, オミナエシ科, マツムシソウ科. 長野県植物誌編纂委員会 (編). 長野県植物誌, 392-400, 789-795, 928-957, 1024-1034, 1048-1049, 1049-1052, 1052-1053. 信濃毎日新聞社



写真 3. 井上健先生が執筆された代表的な一般書

- 1997 共著 ラン科. 井上 健・池上睦美. 長野県植物誌編纂委員会 (編). 長野県植物誌, 1459-1499. 信濃毎日新聞社
- 1997 共著 ホタルブクロ, [コラム] “血液型” でわかったシマホタルブクロのルーツ. 週刊朝日百科 世界の植物 2 巻. 40-44. 朝日新聞社.
- 1997 共著 ショウキラン, ホテイラン, トラキチラン, サギソウ, ハクサンチドリ, キソチドリ, アツモリソウ, ヤクシマラン, [トピックス] 多様なランをつくりだした共進化, [コラム] 運動するランの花. 週刊朝日百科 世界の植物 9 巻 (ラン科責任編集). 140-143, 210-211, 222-224, 227-235, 248-253. 朝日新聞社.
- 1997 共 著 Plant-pollinator interactions and floral radiation in *Platanthera* (Orchidaceae). Hapeman, J. R. and Inoue, K. Molecular evolution and adaptive radiation, Givnish, T. J. and Sytsma, K. J. (eds.). 434-454. Cambridge Univ. Press.
- 1998 共著 カワラノギクの個体群の生育環境の復元についての研究. 平成 6～8 年度とうきゅう環境浄化財団助成研究成果報告書
- 2000 共著 ポリネーターへの適応とは? . 花生態学の最前線. 種生物学会 (編). 150-151. 文一総合出版
- 2003 共著 ラン科. レッドデータプランツ 絶滅危惧植物図鑑. 矢原徹一 (監). 山と溪谷社

- 2015 共著 ラン科. 増補改訂新版 レッドデータブック 絶滅危惧植物図鑑. 矢原徹一・藤井伸二・伊藤元己・海老原淳 (監). 山と溪谷社
- 2016 共著 Orchidaceae. Yokota, M., Inoue, K., Nakajima, M., Ohba, H. Flora of Japan, Vol.IVb Angiospermae Monocotyledoneae(b). Iwatsuki, K., Boufford, D. E. and Ohba, H. (eds.). 198-311. Kodansya
- 【論文等】
- 「長野県植物研究会誌」(長野県植物研究会)
- 1989 長野県のツレサギソウ属植物 22: 1-3
- 1989 [例会講演抄録] ツレサギソウ属植物の系統と進化 22: 38-40
- 1990 ツキヌキソウ(スイカズラ科)の繁殖生物学—予備的な報告— 23: 1-4
- 1991 カタクリ, タデスミレ, トガクシソウの集団のサイズ構造 24: 10-14
- 1993 長野県希少植物の保全に関する研究覚書 26: 1-4. 井上 健, 鷲谷いづみ, 倉本 宣
- 1993 前会長豊国秀夫氏(1932-1992) 26: 41
- 1994 トガクシショウマ(メギ科)の繁殖生物学 27: 9-15
- 1994 [夏季例会報告] 諏訪湖の植物観察会 27: 53
- 1996 長野県におけるフクジュソウとミチノクフクジュソウの分布について 29: 25-28. 川角宏高・井上 健
- 1996 ハナノキ(カエデ科)の繁殖生態 29: 29—32
- 1996 長野県の絶滅危惧植物調査報告 29: 44-46
- 1996 [例会報告] 上村日影岩の植物観察会 29: 56-57
- 「The Journal of Japanese Botany・植物研究雑誌」(ツムラ研究所)
- 1979 The peculiar structure of column in *Platanthera brevicealcarata*. 54: 285-288
- 1979 ヤクシマチドリについて. 54: 373-375
- 1981 Notes on infraspecific taxa in *Platanthera stenoglossa* Hayata from Taiwan and Japan. 56: 120-127
- 1981 Beetle pollination of *Platanthera chorisiana* (Orchidaceae). 56: 213-218
- 1983 On two putative natural hybrids of *Platanthera* (Orchidaceae) from Japan. 58: 185-192
- 1983 Notes on *Platanthera* (Habenaria) from Yunnan and northern Burma described by W. W. Smith. 58: 306-315
- 1986 Notes on Asiatic species of *Platanthera* (Orchidaceae) (1) Two new species of *Platanthera* from Bhutan and China. 61: 193-198
- 1986 Phylogeny within the Tulotis group of the genus *Platanthera* (Orchidaceae) by character compatibility analysis. 61: 276-286
- 1988 Notes on Asiatic species of *Platanthera* (Orchidaceae) (2) *Platanthera minutiflora* and *P. albo-marginata*. 63: 8-12
- 1996 On floral morphology of *Androcorys japonensis* F. Maekawa and systematic position on this species. 71: 121-124
- 1997 チョウセンキバナノアツモリソウ, 日本新産植物. 72: 62-65
- 1997 A new species of *Clerodendrum* (Verbenaceae) from the Izu Islands. 72: 117-124. Inoue, K., Hasegawa, M. and Kobayashi, S.
- 1998 Recently rediscovered type materials of orchids described by Dr. Fukuyama and Dr. Masamune. 73: 199-230. Inoue K., Katsuyama T., Takahashi H. and Akiyama, M.
- 1998 福山伯明博士および正宗厳敬博士により記載され, 最近再発見されたラン科植物のタイプ標本. 73: 199-230. 井上 健・勝山輝男・高橋秀男・秋山 守
- 1998 コウヅシマヤマツツジの雑種を支持する証拠. 73: 170-173. 高橋秀男・勝山輝男. 井上 健・小沢正幸
- 2002 A new species of *Symplocarpus* (Araceae) from Nagano Prefecture, central Japan. 77: 96-100. Otsuka, K., Watanabe, R. and Inoue, K.
- 「Plant Species Biology・種生物学研究」(種生物学会)
- 1986 Evolution of *Campanula punctata* Lam. in the Izu Islands: Changes of pollinators and evolution of breeding systems. 1: 89-97. Inoue, K. and Amano, M.
- 1986 Experimental studies on male and female reproductive success: Effects of variation in spur length and pollinator activity on *Platanthera mandarinorum* ssp. *hachijoensis* (Orchidaceae). 1: 207-215
- 1988 Pattern of breeding-system change in the

- Izu Island in *Campanula punctata*: bumblebee-absence hypothesis. 3: 125-128
- 1989 Geographical variation in thermal germination responses in *Campanula punctata* Lam. 4: 69-74. Inoue, K. and Washitani, I.
- 1990 Evolution of mating systems in island populations of *Campanula microdonta*: pollinator availability hypothesis. 5: 57-64
- 1990 Dichogamy, sex allocation, and mating system of *Campanula microdonta* and *C. punctata*. 5: 197-204
- 1990 シマホタルブクロの進化生物学. 14: 1-6
- 1994 Factors controlling the recruitment of *Aster kantoensis* (Asteraceae) I. Breeding system and pollination system. 9: 133-136. Inoue, K., Washitani, I., Kuramoto, N. and Takenaka, A.
- 「Ecological Research」(日本生態学会)
- 1986 Different effects on sphingid and noctuid moths on the fecundity of *Platanthera metabifolia* (Orchidaceae) in Hokkaido. 1: 25-36
- 1995 Different responses of pollinating bees to size variation and sexual phases in flowers of *Campanula*. 10: 267-273. Inoue, K., Maki, M. and Masuda, M.
- 1998 Identification of conservation measures to protect Japanese endangered plant species *Aster kantoensis*. 13: 141-149. Inoue, K., Kuramoto, N., Maki, M., Masuda, M. and Washitani, I.
- 「造園雑誌・ランドスケープ研究」(日本造園学会)
- 1992 多摩川におけるカワラノギクの保全生物学的研究. 55: 199-204. 倉本 宣・竹中明夫・鷺谷いづみ・井上 健
- 1993 多摩川中流の流水辺における河辺植生構成種の分布特性についての研究. 56: 163-168. 倉本 宣・井上 健・鷺谷いづみ
- 1994 多摩川におけるカワラノギクの種子期の動態. 57: 127-132. 倉本 宣・鷺谷いづみ・牧 雅之・増田理子・井上 健
- 1995 多摩川におけるカワラノギクの個体群の分断化とその保全における種子散布の役割. 58: 113-116. 倉本 宣・鷺谷いづみ・井上 健
- 1996 多摩川におけるカワラノギクの生育地の特性についての研究. 59: 93-96. 倉本 宣・井上 健
- 1997 カワラノギクの個体群構造と実生定着のセーフサイトに関する研究. 60: 557-560. 倉本 宣・加賀谷美津子・可知直毅・井上 健
- 2000 レッドデータブックの出版と有効活用. 64: 307-309
- 「植物分類, 地理」(植物分類地理学会)
- 1998 ムカゴサイシンの北限の新産地. 48: 205. 井上 健・谷亀高広
- 1998 ヤクシマシュスラン, カゲロウラン八丈島に産す. 48: 205-206.
- 1999 カイサカネラン再発見される. 49: 197-199. 今井建樹・井上 健
- 「Acta Phytotaxonomica et Geobotanica」(日本植物分類学会)
- 2002 Notes on the pollination of *Cypripedium macranthos* var. *speciosum* and *Dactylophiza aristata* (Orchidaceae). 53: 85-88. Sugiura, N., Inoue, K. and Goubara, M.
- 2002 A new species of *Yuania* (Orchidaceae) from southern Nagano, central Japan. 53: 107-114. Inoue K. and Yukawa T.
- 2005 Return from the lost: rediscovery of the presumed extinct *Leptosolenia* (Zingiberaceae) in the Philippines and its phylogenetic placement in gingers. 56: 41-53. Funakoshi H., Kress W. J., Skomickova J., Liu A. Z. and Inoue. K.
- 「ラン・ネットワーク Japan」(ラン・ネットワーク)
- 1998 ラン・ネットワークの発足にあたって. 1: 1-2
- 2000 所感. 2: 1-2
- 2001 ラン・ネットワークの今年の抱負. 3: 1-2
- 2002 昨年の活動報告と今年の活動計画. 4: 1-2
- 2003 自然再生とラン・ネットワークの活動. 5: 1-3
- 植物の分類や進化に関するもの
- 1980 Orchid genus, *Platanthera* of Taiwan. J. Phytogeogr. Taxon. 28: 1-13. Inoue, K. and Lin, T.-P.
- 1980 ランの適応と進化. 採集と飼育 42: 586-590
- 1982 Taxonomic notes on some species of *Platanthera* (Orchidaceae) in Japan. J. Fac. Sci.

- Univ. Tokyo, Sect. III, 13: 175-202
- 1983 Systematics of the genus *Platanthera* (Orchidaceae) in Japan and adjacent region with special reference to pollination. J. Fac. Sci. Univ. Tokyo, Sect. III, 13: 285-374
- 1984 チョウやガの長いストロー. アニマ 8: 36-37
- 1985 Reproductive biology of two *Platantheras* (Orchidaceae) in the Islands of Hachijo. Jap. J. Ecol. 35: 77-83
- 1990 Allozyme differentiation and genetic structure in the island and mainland Japanese populations of *Campanula punctata* (Campanulaceae). Ame. J. Bot. 77: 1440-1448. Inoue, K. and Kawahara, T.
- 1992 Allozyme variation in *Quercus crispula* var. *crispula* and var. *horikawae*. J. Phytogeogr. & Taxon. 40: 1-4. Tanimoto S., Inoue K. and Shibata O.
- 1993 Evolution of mutualism in plant-pollinator interactions on islands. J. Bioscience 18: 525-536
- 1995 Pollination ecology of *Dendrobium setifolium*, *Neuwiedia bornensis*, and *Lecanorchis multiflora* (Orchidaceae) in Sarawak. Tropics 5: 95-100. Inoue K., Kato M. and Inoue T.
- 1997 Evidence of pollen transfer efficiency as the natural selection factor favoring a large corolla of *Campanula punctata* pollinated by *Bombus diversis*. Oecologia 111: 535-542. Kobayashi, S., Inoue, K. and Kato, M.
- 1999 Mechanism of selection favoring a wide-tubular corolla in *Campanula punctata*. Evolution 53: 752-757. Kobayashi, S., Inoue, K. and Kato, M.
- 2001 Flowering phenology, pollination, and fruit set of *Cypripedium macranthos* var. *rebunense*, a threatened Lady's Slipper (Orchidaceae). J. Plant Res. 114: 171-178. Sugiura, N., Fujie, T., Inoue, K. and Kitamura, K.
- 2001 Random amplified polymorphic DNA (RAPD) variation among populations of the insular endemic plant *Campanula microdonta* (Campanulaceae). Ann. Bot. 87: 661-667. Oiki, S., Kawahara, T., Inoue, K., Ohara, M. and Maki, M.
- 2002 アツモリソウとハクサンチドリ (ラン科) の送粉に関する知見. 分類 2: 100. 杉浦直人・井上健・郷原匡史
- 2002 Bumblebee pollination of *Cypripedium macranthos* var. *rebunense* (Orchidaceae); a possible case of floral mimicry of *Pedicularis schistostegia* (Orobanchaceae). Pl. Syst. Evol. 235: 189-195. Sugiura N., Goubara M., Kitamura K. and Inoue K.
- 2003 Character displacement in style length between pollinator-sharing *Clerodendrum trichotomum* and *C. izuinsulare* (Verbenaceae). Plant Syst. Evol. 243: 31-38. Miyake T. and Inoue K.
- 2003 ランの自然史. 学際 8: 38-41
- 絶滅危惧種やその保全に関するもの
- 1993 滅びゆく生物たち. SUT Bulletin 1993年2月号 22-26. 東京理科大学出版会
- 1996 Life history and demographic features of *Aster kantoensis*, an endangered local endemic of floodplants. Biological Conservation 78: 345-352. Takenaka A., Washitani I., Kuramoto N. and Inoue K.
- 1996 日本のラン科植物の現状と保全. 保全生態学研究 1: 115-129
- 1997 *Aster kantoensis* Kitam., an endangered floodplain endemic plant in Japan: Instability to form persistent soil seed banks. Biological Conservation 82: 67-72. Washitani, I., Takenaka, A., Kuramoto, N. and Inoue, K.
- 1998 Inbreeding depression in the endangered autotetraploid plant *Aster kantoensis*. J. Heredity 89: 559-562. Inoue, K., Masuda, M. and Maki, M.
- 1998 カワラノギクの局所個体群の大きさが訪花昆虫の訪花頻度に及ぼす影響とカワラノギク保全手法. 環境システム研究 26: 55-60. 倉本 宣・加賀屋美津子・井上 健
- 2000 多摩川のカワラノギク保全のための緊急アピール. 保全生態学研究 5: 191-196. 倉本宣・石濱史子・鷺谷いづみ・嶋田正和・可知直毅・井上健・加賀谷美津子・牧雅之・竹中明夫・増田理子
- 2001 Recent status of orchids in "SATOYAMA" area. Global Environ. Res. 5: 163-168